

2021（令和3）年度「ESD for 2030学び合いプロジェクト」総括表

地方センター	テーマ	期間	活動	参加地域 拠点数(ブ ロック内)	参加地域 拠点数(ブ ロック外)
北海道	気候変動教育の確立・普及に向けた情報共有・対話の促進	2021年6月～ 2022年3月	勉強会5回	1	6
東北	地域の素材から考えるESD/SDGs教育の可能性	2021年7月～ 12月	勉強会4回、 実践活動1回	9	0
関東	自然体験を通じて、生活に関わるSDGsを学ぶ	2021年7月～ 2022年1月	勉強会4回、 実践活動1回	3	0
中部	ローカルSDGsのためのESDの社会実装	2021年6月～ 12月	勉強会5回、 実践活動1回	6	0
近畿	脱炭素型ライフスタイルを促すESD学習プログラムの向上	2021年7月～ 11月	勉強会8回、 実践活動1回	5	3
中国	脱炭素社会に貢献する学校断熱のSDGs探求学習プロジェクト「津和野高校断熱改修プロジェクト」	2021年8月～ 2022年2月	勉強会5回、 実践活動3回	0	0
四国	「消費者教育の推進と社会変容」～ジェンダーの視点&エネルギーシフトの視点～	2021年5月～ 12月	勉強会3回	8	0
九州	中学校におけるSDGsを活用したキャリア教育	2021年度～ 2022年度	勉強会5回、 実践活動2回	4	5

学び合いプロジェクトの成果の振り返り、課題や今後の方向性への意見等

(2022年1月26日 第2回ESD活動支援センター（全国・地方）連絡会)

主な成果
<ul style="list-style-type: none"> ・各地方センターの特色・得意分野が活かされていた。 ・他のネットワークとの連携ができた。地域外の主体とつながることができた。 ・参加団体から次の段階に向けた具体的な企画の提案がなされたり、実践活動の場にならなかった拠点のプログラムについてもプロジェクトメンバー全員で検討したりするなど、参加者の主体的な関わりが見られた。 ・地域を問わずに参加が可能(海外からの参加もあった)、勉強会を後日録画配信できるなど、オンライン開催のメリットを活かすことができた。 ・アウトカムについては、戦略～戦術～プラットフォームづくりなど地方センターによって様々であったが、学び合いのモデルをつくり、提示しているといえる。
課題・今後の方向性

- ・地域外の拠点の参加がなかった(参加者自体は地域外からもあったが、個人名で参加された場合地域拠点に所属する方なのか判別できない)。
- ・今年度の目標としては達成されたかもしれないが、全体として何をねらうのか、どこを目指すのかははっきりさせるべきだった。学び合いプロジェクトを含めた地方センターの活動を、ターゲット(最終受益者)、活動領域(学校教育、社会教育(地域)、社会教育(ビジネス人材))等で整理したマトリクスを作成し、戦略を立てて展開する必要がある。
- ・ESDは幅が広いため、各センターが自由に活動すると総体として具体的な成果を示しにくい。限られた予算・人員で成果を出していくためにも、全地方センターと全国センターが共通して取り組む重点事項は決めておくべき。
- ・学び合いプロジェクトのアウトプット(情報発信)についても今後検討していく必要がある。
- ・もともと実施していた活動に今年度から学び合いプロジェクトが加わり、地方センターに負担がかかっていることから、学び合いプロジェクトをこれまでの活動を広げていくための手段と位置づけるのも一案。